

企業ニュース ミネベアミツミ

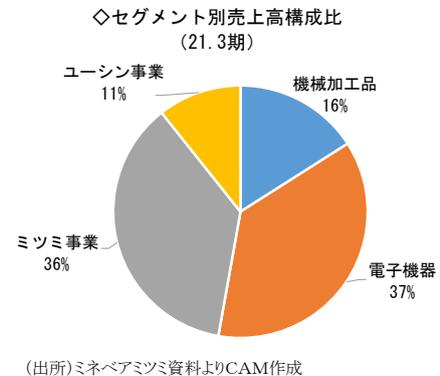
(東証1部 : 6479) <https://www.minebeamitsumi.com>

成者 : 奥村義弘

幅広い顧客を有する精密部品メーカー

1951年、わが国最初のミニチュアベアリング専門メーカーとして設立。以来、主力のベアリング事業拡大を図ると同時に内外有力企業を次々に買収。今では、機械加工品、電子機器、電子部品、自動車部品などを手掛ける精密部品メーカーに変貌している。

経営戦略は、10のコア技術（超精密機械加工、大量生産、センサー、光学、MEMS、高周波、電気回路、半導体設計、機構設計、システム設計）と新8本槍（ベアリング、モーター、アクセス製品、センサー、コネクタ/スイッチ、電源、無線/通信/ソフトウェア、アナログ半導体）を中心とする多角化経営で、持続的な成長をはかる。24. 3期の数値目標に売上高1. 2兆円、営業利益1, 150億円（営業利益率9. 6%）を掲げる。



車載、データセンター、高級家電向け等の需要は旺盛

22. 3期の第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が2, 483億円、前年同期比32%増、営業利益が196億円、同476%増。セグメント別の営業利益では機械加工品事業が109億円、同53%増。ボールベアリングは自動車向けが堅調に推移した。一方ロッドエンドベアリングは航空機関連が減少した。電子機器事業が79億円、同240%増。液晶用バックライトのスマートフォンにおける採用モデルの減少はあったが、車載モーターの需要が増加した。ミツミ事業は51億円、同52億円の改善。半導体デバイス、カメラ用アクチュエータが堅調、ゲーム機等の機構部品が好調であった。ユーシン事業は営業損失0. 8億円、同27. 3億円の改善。自動車市場や農機、建機向け需要が好調。

22. 3期の通期会社計画は売上高が1兆500億円、前期比6%増、営業利益が870億円、同70%増。期初計画から、営業利益で70億円上方修正したが、上半期分のみの上積み。車載、データセンター、高級家電向け等の需要は旺盛で、ボールベアリングでは多目的工場の一部をミニチュアベアリング工場へと設備整備を進めている。6月30日付でオムロンの事業買収を発表するなど、アナログ半導体の体制整備にもまい進している。なお上期決算の発表は11月5日を予定している。

[株価動向・投資判断]

下期以降にさらなる上方修正余地を残している。自社株買いの実施も好感できよう。

<6479 ミネベア 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は日経予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 3	978, 445 (11)	58, 647 (▲ 19)	58, 089 (▲ 19)	45, 975 (▲ 24)	111. 1	28. 00
21. 3	988, 424 (1)	51, 166 (▲ 13)	49, 527 (▲ 15)	38, 759 (▲ 16)	95. 0	記36. 00
22. 3 予	1, 050, 000 (6)	87, 000 (70)	- (-)	68, 000 (75)	167. 5	40. 00



[主要株価指標] (売買単位 : 100株)	
株価 (2021/10/8)	2, 679 円
年初来高値 (高値日)	3, 165 円 (21/7/13)
同 安値 (安値日)	2, 000 円 (21/1/4)
予想 P E R (22. 3 予)	16. 0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1, 121. 2 円
P B R	2. 39 倍
予想配当利回り	1. 49 %
(1株当たり配当金40. 00円)	
R O E (21. 3)	9. 2 %
発行済み株式数	42, 708 万株